

平成 28 年度 宮城県仙台第二高等学校アメリカ研修報告書

◆四日目：7月27日（水）

時間	報告
07:00	起床
07:45	朝食
09:00	英語クラス
10:30	休憩
10:45	英語クラス
12:15	昼食
14:00	「Boston Freedom Trail」(フリーダム・トレイル)へ出発
16:00	アメリカ建国の舞台となったボストン市内、独立運動に関連する名所・旧跡を巡るルートの一部を散策
18:00	夕食
19:00	イブニング・アクティビティー（他国生との交流プログラム）
21:30	翌日以降のスケジュール確認とミーティング（生徒間での研修成果共有と振り返り）
22:45	終了後、解散／就寝
	<p>【追記】</p> <p>本日も全員元気に朝食会場へ集合。ピュッフスタイルの朝食を取り分けるや否や、他国生が座るテーブルの空き席めがけてまさにまっしぐら、あるいは、食べながらきよろきよろと明らかに拳動不審に周囲（他国生）を物色する姿が・・・獲物を狙うハンターと化している生徒もいます（笑）。</p> <p>さて、朝食を済ませると、まだまだ慣れない他国生との混合クラスへ。少人数でのグループワーク中心に課題をこなしたり、ゲーム形式での問題に取り組んだり、テーマに沿ってプレゼンを行ったりと、グループ内の日本人同士、あるいは他国生と協力しつつ、午前中約3時間の英語クラスに臨みました。生徒たちの多くは英語講師の指示を理解しながらも、伝えられない、リアクションできない、分かっているのに最初には手を上げられない自分自身にもどかしさと悔しさを感じ、日記にもこの心境が多く綴られていました。もちろん英語にして伝えるだけの力は十分にあります。しかし、他国生との違いは何なのか、この答えは研修全体を通してのテーマの一つでもあるでしょう。小さな教室のなかでそれぞれいろいろなものと戦っています。</p> <p>午後は、ボストンの歴史に纏わる史跡、つまりアメリカ建国につながる独立運動に関連する史跡を歩いて巡る「フリーダム・トレイル」へ。トレイル全てを踏破することはできませんが、マサチューセッツ州議事堂、ベンジャミン・フランクリン、ジョン・ハンコック、サミュエル・アダムスなどアメリカ建国にゆかりのある政治家、志士、愛国者が眠るグラナリー墓地、オールド・サウス集会場、旧州議事堂、ボストン虐殺事件跡など、茶会事件にも代表されるイギリスからの独立の動きの引き金となった歴史的イベントに纏わるいくつかの史跡を、語学学校のアクティビティー・リーダーのガイド（英語）により1時間ほどかけて巡りました。その後、トレイルの一つであるクインシーマーケット、及びファニエル・ホールにて、買い物と自由散策を楽しんだ後、徒歩にて大学へ戻りました。</p> <p>夕食後は、他国生とのイブニング・アクティビティー（自主交流）に参加いたしました。サッカー、及びバドミントンの「スポーツ」グループ、大学ほど近くチャールズ川沿いにある野外劇場にて行われたクラシックコンサート（無</p>

料)への「芸術鑑賞」グループ、若者に人気の買い物エリア、Newbury Streetでの「ショッピング」グループの4つから希望のアクティビティに参加しました。サマータイムにより、20時過ぎまで明るい東海岸の宵、おもいおもいに自分たちの時間を楽しみました。

早くも研修半ばとなる本日、あっという間に過ぎた三日間に多くの課題と後悔を感じていた生徒たちに時間を与え、上記イブニング・アクティビティ終了後の約1時間、これまでの自分と今後の研修について、本音を出しあうことを提案いたしました。また、チームとしての意識に温度差が出ていることに違和感を感じていた生徒たちも少なくなく、個々の研修と同時に、校長先生が仰られた「チームとしての成長」にも言及し、我々が想定した以上に深く率直な意見を、手を上げることもなく次から次への皆の前に立ち発言していきました。

日記には記されない深い思いや悔しさ、これまでは言いづらかった厳しい指摘も多くの生徒からなされ、自分は逃げていないか、満足のレベルは低くないか、限界を決めていないか、まだやれるはず、と残り2日のポストン研修+1日(土曜日の班別研修)を、絶対後悔しないよう全力で取り組む決意を感じる時間となりました。

これも校長先生からのおことばですが、「切磋琢磨」するチーム、「二高生としてのプライド」この意味をしっかりと考える機会にもなったと感じます。

以上、本日の報告とさせていただきます。

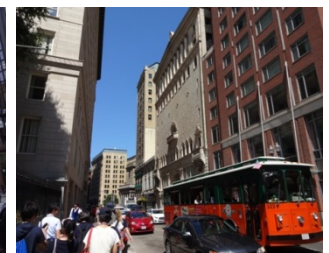
#### 《英会話クラスの様子》







「フリーダムトレイル散策」



「カフェテリアでの様子」





